

青雲

12号 2010.3

発行人／(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義氏



えにし

『縁』

出雲の神さまといえば大国主大神、“縁結びの神様”とありますがこの縁結びは、単に男女の仲を結ぶことだけでなく、人間が立派に成長するように、社会が明るく楽しいものであるように、すべてのものが幸福であるようにと、お互いの生成の為つながりが結ばれる縁もあるのではないかと思います。

我々が縁を大切に一致団結し、縁=絆の和を広げて行きながら青年部会らしい行動と自らの力で未来を切り開いて行こうではありませんか!!

優れた創造力と逞しき意志、勇気と燃える情熱を持って!!

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 広報委員会

青雲

12号 2010 CONTENTS

- 巻頭言／「旧態依然からの脱却」～新鮮な力で挑戦を～
(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会長 山崎 章弘…………… ①②
-
- 平成21年度卒業生より一言…………… ③～⑥
- (株)山崎組 山崎 章弘 「この素晴らしい出逢いに感謝」
出雲グリーン工業(株) 吾郷 直之 「青年部会を振り返って」
(株)岩崎建設 岩崎 哲也 「感謝のバトン」
(株)フクダ 加藤 昌樹 「青年部会卒業にあたり」
-
- 平成21年度新入会員紹介…………… ⑦
- (有)浅津工務店 代表取締役 浅津 智雄
(株)中筋組 工事開発室係長 大野 剛
出雲土建(株) 営業主任 小村 伸一
-
- 平成21年度事業報告
- ・経営研究技術研修会報告…………… ⑧～⑪
～PFI事業に関する研修会～
(有)平井組 平井 貴司…………… ⑫
 - ・親睦事業結果報告
～第2回親善野球交流試合～
(有)川角建設 川角 宣広…………… ⑬
 - ・地域貢献事業報告
～ふるさとまるごとクリーンアップ作戦～
久文建設(株) 嘉戸 務…………… ⑭
 - ・平成21年度視察研修報告
～日本の歴史教育を次世代へ伝えるために～
(株)三原組 三原 惇志…………… ⑮⑯
新分野進出！～情報収集視察研修～
昭和開発工業(株) 荒木 克之…………… ⑰⑱
-
- 俺の人生オフロード!!
(株)山本工務店 花田 泰久…………… ⑲
-
- 編集後記 <広報委員 / 内藤 圭司>



「旧態依然からの脱却」 ～ 新鮮な力で挑戦を～

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会
部会長 山崎章弘

【政権交代】

平成 21 年秋、とうとう建設業界に大きな荒波注意報が発令されました。そう、政権交代による民主党政権の誕生であります。この荒波は、平成 22 年度以降には警報と変わり、やがて多くの建設業者がそれに呑み込まれ、倒産・廃業等による失業者が増大等の被害が予想されます。

「コンクリートから人へ」という迷フレーズを旗頭に、地方の零細建設業者は今まさに世の中の経済構造から事業仕分けをされようとしています。島根県において大きな主力産業である建設関連業は、地域に根付いた立派な地場産業であるにも関わらず、そこに携わる人々は生活の安定も担保されず、先の希望すら見えない状況に追い込まれています。明らかに“いのちを守る”“地方を守る”政策ではないような気がします。

しかしながら、これは夢でも錯覚でもなく、紛れもない現実であり事実であります。我々は、この状況下でも健全に会社を経営し、従業員を雇用していかなくてはならない責任があります。大変なことです…。もっと「働くいのちを守りたい」と言えるような政策が必要ではないでしょうか。また、経済循環がしっかりと役割を果たし、企業として利益が確保でき、気持ち良く納税ができる社会システムの構築をお願いしたいものです。

【建設業協会のメリットとは？】

青年部会の事業テーマのひとつとして、昨年から入札制度改革についての調査研究及び議論を行ってきました。その中で、ひとつ結論として導いたことは、“**建設業協会の会員であるが故のメリットを入札制度の要件の中に導くための仕組み**”を提案することでした。

昔から現在に至るまで、協会の主要事業として実施されている ①技術者としてより高度な技術や工法を習得するための**技術研修活動**(継続学習)、②労働災害防止の意識を高揚するための**労働安全衛生教育活動**、③災害時の緊急対応やボランティア活動等の住みよい安心安全な地域づくりに寄与するための**地域貢献活動**を“**入札制度の中で最大限に評価**”して頂くための提案です。

協会費を払い、協会に加入しているのは何のためなのか？それは昔から建設業協会という組織にメリットがあったからだと思います。個人差はあるものの、そこに協会に対して費用対効果が確認できたからではないでしょうか。今や簡単に誰でも建設業許可が取得でき、申請さえすれば誰でも公共工事の入札に参加できるという、意味をはき違えた様な平等性が行政では支持されています。

本来、国民の血税を使って行う公共工事の入札については、行政が上記に挙げた 3 項目をはじめとする様々な社会的要件・技術基準等を満たす優良な企業を自らが選定判断し、入札を実施するものではないでしょうか。行政には公共工事発注者として、その企業を選ぶ義務があると思います。行政にも毅然とその判断を行って頂き、我々建設業協会の会員企業がその選ばれる主役になれるように、もっともっと自助努力をすることが必要であると思います。まずは、建設業協会の会員であることに自信と誇りを持ち、薄暗い灯火かも知れませんが希望を持ちたいものです。

【これから我々はどうなる？】

来年度以降、公共事業の予算は更に輪をかけて削減されていきます。残念ながら、これから先、絶対に増えていくことは無いようです。前原国土交通大臣曰く、「建設業者は農業・林業・介護の業種に移行しなさい」。簡単におっしゃっています。ほぼ無理です。・・・

日本の建設業者の90%以上は中小零細企業であり、今現在この不透明な時代の中に置かれ、余力・体力そして知力も無い状態です。この状況下で、多額の設備投資を行い、将来性も確保されない新規分野に向かっていくことは、自分の首を絞めるようなものだと思います。その道のプロである専業農家や林業に従事する方が、自分の報酬をゼロにして計算しても利益が出ないと言われるところに、素人の何もわからない建設業者が向かって、・・・答えはわかると思います。新分野進出には稀な確率で成功する業者があるかもしれませんが、よほど経営力や人材力等が優良な業者でない限り、殆どが失敗するよう思われます。また、異業種参入すると、何かを生産しそれを販売して利益を上げ運営していくようになると思いますが、販路の確立もされないところに向かっていくのは極めてリスクが高いことだと思います。国の方で責任をもって専売でもしてもらえれば別ですけど・・・。

やはり我々は、建設業者ですので、その知識のある分野で新しいことを考えなくてはいけないと思います。今までは、何もしなくても行政から入札指名や入札公告があり、公共工事の受注をしてきましたが、国をはじめ各地方自治体にお金が無いことはご承知のとおりであり、これからは、これら受身の営業だけで会社経営はしていけない状況になってくると思います。中には、まだその危機感すら持っていない業者もあるように思えます。最終的には、自分(会社)の行く末は自分で考えないと、誰も助けてはくれないはずですから・・・。

【青年部会の会員ならば・・・】

もう昔の儲かった頃の土建屋の考え方は忘れましょう。そこからスタートです。また、会社の経営者であること、従業員を雇用していることを自覚し責任を持ちましょう。そのためには、早く会社の代表者(社長)になって重責を担うことが必要であると思います。No.2はいつまで経っても、何をやってもNo.2ですから・・・。重責を担うことによって自然と自分が目指す将来ビジョンが見えてくると思います。

もうひとつ青年部会の大きな役割として、“自分さえ良ければ”では無く、会員同士が知恵を出し合いながら協調でき、お互いに利益を上げることができる方法を考えることであると思います。若い世代同士ならば、それができるはずですが、この建設業協会の良き伝統を引き継ぎながら、協会のメリットが果たせるためのシステムづくりを、若く新鮮な想いで高い志をもって実行していくことが重要であると思います。

また、先に述べたように、受身の営業だけではやっていけないと思いますので、新しい公共工事のあり方や受注の仕方を模索することが大事なことになってくると思います。確実に“自分の仕事は自分で作る”“金があるところから仕事を引っ張ってくる”そういう時代になってくると思います。そのためには、自分の人脈作りと新しい事業に対する起案力や行動力が不可欠になってきます。時には、頭脳も金(投資)も使いながら、これからの苦難の時代を生き抜けるように頑張りましょう。

まずは、人から信頼される自分づくりから・・・。

「この素晴らしい出逢いに感謝」

(株)山崎組 山崎章弘

平成 9 年 7 月、建設業協会出雲支部青年部会設立当初から 13 年間、この青年部会にお世話になりました。その頃は、まだ 32 歳だったんですね。ウェートは今より△ 15kg くらいだったでしょうか。記憶がありませんが、この度卒業させていただきます。

この青年部会を通して、優しい人、恐い人、頭がいい人、行動力がある人、リーダーシップ性がある人、金持ちの人、ちょっと近寄りがたい人、太った人、ハゲた人、痛風の人等本当に多くの皆様と知り合いになることが出来ました。青年部会ならではの出逢いであったと思います。気の合う仲間もでき、なかなか出来ないような経験や修練もさせて戴き、その中で様々な知識を得ることができたことは、自分にとって一生の財産になったと思います。また、出逢った皆様と一時代の同時期を一緒に過ごせたことは、自分にとって何よりの報酬であったと思います。

こんな浅学菲才な私が、この青年部会の部会長をするとは欠片も思ってもいませんでした。設立時から有能な歴代部会長の姿を見ながら過ごしてきたので尚更そう思います。これが自分にとって青年部会での最大の研修であったと思います。同時にこの機会を与えて頂いたことに感謝をしております。

青年部会の事業には参加しなくては意味がない、参加すれば何がしらの徳がある。メンバー同士で酒を酌み交わし、いろんな話をする中でいろんなものが生まれてきます。損になるものは何もない。“迷わず行けよ、行けば分かるさ”そこに“道”がある。

この 13 年間で出逢ったすべての方々へ感謝を申し上げ、最後の御礼とさせていただきます。この業界に対する密やかな想いは尽きませんが、次年度新部会長のリーダーシップと行動力のもとで、青年部会の更なる可能性に期待を致します。

ありがとうございました。合掌



青年部会を振り返って

出雲グリーン工業(株) 吾郷直之

私は平成9年の青年部会設立当初より入会させていただき、早いもので13年が過ぎました。

青年部会を振り返り、いろいろな活動に参加いたしましたが一番印象に残っているのは「国道まるごとクリーンアップ作戦」です。

夏場の日差しが強い中、アスファルトからの照り返し、車の排気ガスを浴び、体中汗でベチョベチョになりながら清掃ボランティア活動に参加した事を思い出します・・・いいダイエットになりました(笑)。

また青年部会を通じて大変多くの方と出会い、そして多くの事を学ばせていただきました。

これからも大切にさせていただきます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、青年部設立時、監事で始まり監事で終わらせていただく事を感謝いたすと共に、出雲支部青年部会がより一層発展する事をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。





感謝のバトン

(株)岩崎建設 岩崎 哲也

島根県建設業協会出雲支部青年部会の岩崎です。いよいよ、こう言って挨拶ができるのも、あと僅かとなりました。本来ですと、今年の春で卒業でしたが、役員任期の都合で1年延長となりました。

近年は、経営研究委員会に所属させていただき、昨年からは副部長という大役を受けさせていただきました。その間、皆さんには、いろいろな面で協力していただき、お陰様で、何とか務めさせていただきました。本当に感謝しております。

私が青年部に入会したのは、青年部会発足当初からであります。当時のことを思い出しますと、そうそうたる先輩方の強いリーダーシップのもとで、青年部会が、徐々に一致団結した組織になっていったように記憶しております。そして今日では、出雲支部青年部会は、県下ナンバーワンの評価をいただける青年部会へと成長して参りました。まさに、先輩方の意思をバトンで引き継いで来た成果であり、大きな誇りを感じております。

入会当時の私は、今から考えてみますと、現場の忙しさを理由に、100% 青年部活動に参加していなかったように思います。当時はそれで良いと解釈していたのかも知れません。しかし、私は、徐々に貴重な体験を逃してはならない、青年部の友人は宝であると感じるようになりました。

卒業していく私が言えるのは、とにかく一生懸命、青年部活動に参加していただき、貴重な時間を過ごしていただきたいという事です。青年部会の活動にはメリットが無いなど、まったくのウソであります。次の時代の、出雲地区の建設業を引っ張っていくのは、間違いなく、青年部会の皆さんであると私は確信しています。これからは親会の一員として、皆さんを応援して行こうと思いますので、顔を見るときには気軽に声をかけてください。



さて、私が青年部で経験してきた中で、印象深いことは何だったのか?…本当にたくさんあります。

「国道まるごとクリーンアップ作戦」はもちろんですが、市民会館での講演会、タブーと言われてきた企業合併研修会、周年記念式典での映像、出雲県土と行った親善野球、熊本菊池温泉視察研修、富山カルカル王視察研修、フェリーで行った韓国視察研修、視察研修、視察研修…やはり、一番は、視察研修ですかね!

中でも、熊本菊池温泉と韓国釜山での経験は、今でも鮮明に記憶しております。(本当に、無事に日本に帰れて良かった)とても楽しい経験をさせていただきました。皆さんも、経費が掛かるかも知れませんが、視察研修には、ぜひ参加して、いろんな宝物を身につけていただきたいです。

また、この2年間は、副部長として、会員交流委員会を担当させていただきました。特に、加納委員長には、大変、無理を聞いていただきました…そして、たくさんの会員の皆さんに参加・協力していただきました事、心よりお礼を申し上げます。

最後に、佐田地区の同会員の内藤君、三原君に感謝の意をもって、バトンを渡したいと思います。

ありがとうございました。





青年部会卒業にあたり

(株)フクダ 加藤 昌樹

平成 14 年度に青年部会に入会させて頂いてから早や 8 年、いよいよ卒業の時を迎えることとなりました。

8 年間一貫して広報委員会に所属しておりましたが、その間 2 度にわたり会報誌『青雲』の表紙デザインの一新に携わらせていただきました。

最初は平成 16 年、このたび一緒に卒業することとなった山崎部会長が広報委員長の頃で、新たな表紙は多伎町の雄大な風車の写真でした。時は折しも建設業界に対する逆風が吹き荒れている頃であり、その逆風をエネルギーに換えようではないかという願いをイメージしたものでした。

2 度目の変更は昨年度、間壁委員長のもと青空と雲をバックにした出雲大社のお社の写真でした。『縁結び』の『縁』と書いて『えにし』がテーマであります。

『縁(えにし)』といえば、私自身、青年部会に入会していなければおそらく知り合うことがなかったであろう、多くの会員の方々と交流することが出来たことは、本当に貴重な経験であり良い刺激になりました。まさに『縁』を感じるものであります。卒業してもこのご縁を大切にしていきたいと思えます。

最後に、お世話になりました諸先輩方、会員そして事務局の皆様、本当にありがとうございました。青年部会の益々のご発展をお祈りいたします。



平成21年度 新入会員紹介



浅津 智雄 S 40.12.28生

(有)浅津工務店（出雲市古志町） 代表取締役

今年度より出雲支部青年部会に入会させていただきました(有)浅津工務店の浅津智雄です。

大分年をとってからの入会となり、2年の短い間とはなりますが精一杯がんばりますのでよろしくお願い致します。

入会より8カ月経ちますが縁あって入会させていただきいろんな人との出会いがあり、また多くのことを学ばせていただいています。

このところ、ますます厳しくなってきたこの建設業界で得たものを活かせればと思っていますのでよろしくお願い致します。



大野 剛 S 47.2.11生

(株)中筋組（出雲市姫原町） 工事開発室係長

5月の総会より出雲支部青年部会に入会し約半年が過ぎました。その半年間に長年政権を担ってきた自民党が、昨今の衆議院選挙にて大敗し、我々建設業界を取り巻く環境は尚一層厳しいものになって参りました。

その様な厳しい環境下でも、建設業は地域に欠かせない存在であること、又、新たな可能性に満ちた業界であると思っております。青年部の入会により様々な出会い・勉強会を通じ自分に何が出来るのかを常に考えながら活動をして行きたいと思えます。

今後も、ご迷惑をお掛けするかと思えますが、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。



小村 伸一 S 41.7.12生

出雲土建(株)（出雲市知井宮町） 営業主任

前任者の退職により、昨年12月14日付けで出雲支部青年部会に入会致しました。

昨今の建設業界においては、政権交代に伴い以前にも増して厳しい状況となり、近い将来には建設業者数は半分以下になるとまで言われています。

そうした厳しい中でも、建設業は地域にとってなくてはならない産業であり、これからも継続・発展・進化していかなければならないと思っています。

これからの青年部での活動・研修を通して今までとは違う視点、考え方を学び今後の行動に活かしていきたいと思えます。

至らぬ点もあるかと思えますが、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

平成 21 年度 経営研究技術研修会

－ PFI 事業に関する研修会－

日 時：平成 21 年 11 月 27 日(金)

場 所：出雲建設会館

講 師：(株)エブリプラン 専務取締役 勝部祐治氏

公共事業に大きく依存する我々地方の中小建設業者は、公共事業費の削減が続く中、入札契約制度の改革により価格での競争が激化し、低価格による受注が頻発し、我々建設業界を取り巻く環境は極めて厳しくなっています。

そんな中において、官からの発注を待つ受身から市場開拓する攻めの姿勢へと転換し、今の状態から脱却する一つの方法として、民間の資金や経営能力、技術的能力を活用する PFI 手法での事業に着目しました。

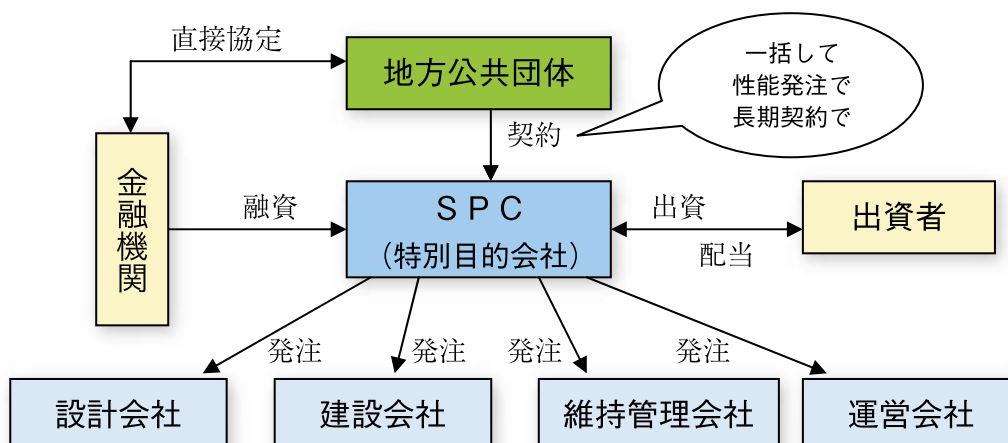
今回の研修会は、PFI 事業に関するごく基礎的な知識習得のための勉強会であり、会員の皆さんにも PFI がどんなものであるかが理解していただけたと思います。

PFI とは

PFI とは、公共事業を実施するための手法の一つです。民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用し、**公共施設等**の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行なう公共事業の手法です。あくまで地方公共団体が発注者となり、公共事業として行なうものです。

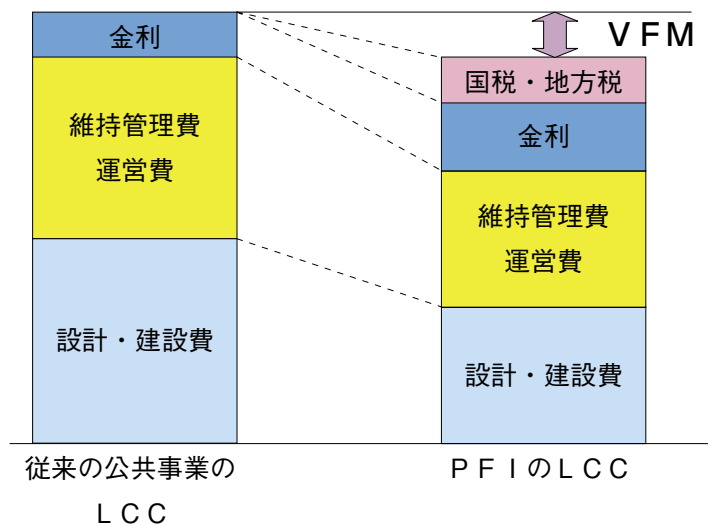
正式名称を、**Private-Finance-Initiative** (プライベート・ファイナンス・イニシアチブ) といい、頭文字をとって PFI と呼ばれています。

PFI の仕組み



VFM (Value For Money)

VFMとはPFI事業における最も重要な概念の一つで、支払い（Money）に対して最も価値の高いサービス（Value）を供給するという考え方のことです。従来の方式と比べてPFIの方が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合です。



PFI の事業方式

B → T → O 方式	Build (建てて)	Transfer (移転して)	Operate (管理・運営する)
B → O → O 方式	Build (建てて)	Own (所有して)	Operate (管理・運営する)
B → O → T 方式	Build (建てて)	Operate (管理・運営して)	Transfer (移転する)
R → O 方式	Rehabilitate (改修して)	Operate (管理・運営する)	

PFI 事業の一般建設工事への適用について

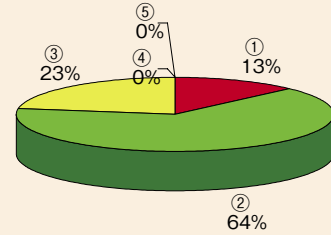
- 建築分野
 - －庁舎、図書館、公営住宅、病院、学校など
- 土木分野
 - －道路、港湾、河川・橋梁、公園、区画整理など
- 環境分野
 - －上・下水道、ゴミ処理場、リサイクル施設、新エネルギー施設など
- その他
 - －道の駅、スポレク施設、観光施設、介護・福祉施設など

PFI 事業に関する研修会についてのアンケート結果

1 PFI 事業について理解できましたか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない
⑤ そう思わない

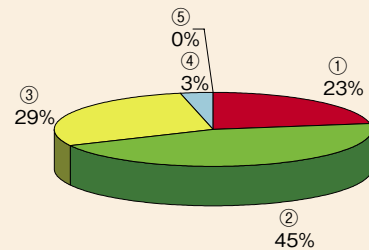
番号	回答者数	割合
①	4	13%
②	20	64%
③	7	23%
④	0	0%
⑤	0	0%
合計	31	



2 PFI 事業に対する興味がわきましたか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない
⑤ そう思わない

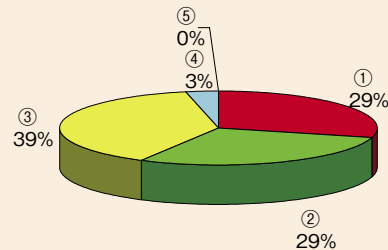
番号	回答者数	割合
①	7	23%
②	14	45%
③	9	29%
④	1	3%
⑤	0	0%
合計	31	



3 地域で PFI 事業を進めようという意見があれば賛同しますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない
⑤ そう思わない

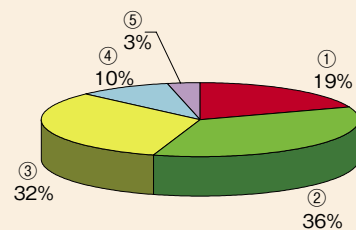
番号	回答者数	割合
①	9	29%
②	9	29%
③	12	39%
④	1	3%
⑤	0	0%
合計	31	



4 今後、出雲支部青年部会で PFI に対する研究を深めていくべきだと思いますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない
⑤ そう思わない

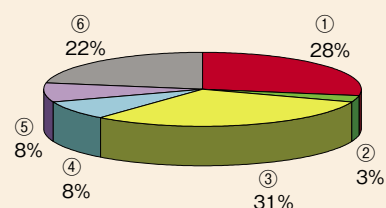
番号	回答者数	割合
①	6	19%
②	11	36%
③	10	32%
④	3	10%
⑤	1	3%
合計	31	



5 地方の建設業者レベルで PFI 事業を起案しようと思った時、どんな事業で実施したら有効的だと思いますか？

- ① 道路事業 ② 河川・橋梁事業 ③ 区画整理事業 ④ 上下水道事業 ⑤ 港湾施設事業
⑥ その他 (環境分野、スポーツ施設、公園、テーマパーク、福祉・介護施設、道の駅)

番号	回答者数	割合
①	10	28%
②	1	3%
③	11	31%
④	3	8%
⑤	3	8%
⑥	8	22%
合計	36	



～意見・疑問点の集約～

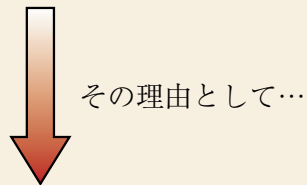
6 その他、PFI事業に関する意見・疑問点等

推進的意見

- ①今後の公共工事がなかなか見込めない中、今までどおりの待ちの営業ではいけないので、これからの公共工事の一つの手法として、PFI事業は効果的であると思う。また、受注確保を考えるのに参考となる手法である。
- ②小規模な地方の建設業者でも出来るような田舎版のPFI事業が構築できれば効果があると思う。また、自分たちの住む地域発展のために、自ら発想し起案することに価値があり、意義があると思う。
- ③利益収入が見込める事業計画で、色々な業種の会社が集まり、運営を伴ったPFI事業が実施できれば事業化が可能であると思う。
- ④公園整備や環境事業でのPFI事業を起案したら良い。
- ⑤PFI事業の見識を深めていくためには、今後も定期的な研修会の開催が必要ではないか。

慎重的意見

☆中小（零細）企業は、PFI事業を行なうには、ハードルが高いように思う。



- ①行政（自治体）の認知度、協力体制及び実行力に疑問を感じる。
- ②地域との連携、要請及び調整等をはじめ、事業の起案に際して難しさを感じる。
- ③PFI事業で行なった施設等では採算が取れているのか。
- ④自治体からの対価の支払期間の長さや、自己資金の調達等にリスクを感じる（ファイナンスの確保等）。
- ⑤複数の業者が共同体で事業を運営する場合、方針や細部にわたる取り決めごとについて統制が取れにくいことが予想される。また、強靱なリーダーシップをとる会社が必要と思われる。

課題として…

- ・行政と地域との連携を今後どのようにしていくか。
- ・PFI事業として取り組むべき事業の事例等データが不足している。
- ・今後もPFI事業について、更に深い内容の研修を進めていく。



平成 21 年度経営研究技術研修会報告 ～PFI 事業に関する研修会～

(有)平井組 平井 貴 司

11月27日にPFI事業に関する研修会を、(株)エブリプラン専務取締役 勝部祐治氏を講師に迎え開催しました。勉強会を行なうに当たり委員会では大変難しい題材に、委員長以下まず私たちがPFIについて勉強しなければいけませんでした。調べていくうちに島根県にも何件かPFIで事業を行なっている事が分かり、余計に興味深くなりました。

研修会当日は勝部氏がパソコンを使って、国内外の事例をもとに仕組みやメリット、デメリットなどの話をしていただき大変勉強になりました。研修会後のアンケートの結果でも約7割の会員の方にPFI事業に対する興味がわいたと回答をいただき、大変良かったと思いました。

これから業界を取り巻く状況はよくはならないと思いますが、これからの新しい手法として検討していければと思いました。

最後になりましたが会員の皆様にはご協力いただきまして誠にありがとうございました。



親睦事業結果報告

～第 2 回親善野球交流試合～



(有)川角建設 川角 宣広

日 時 平成 21 年 6 月 17 日(水)
場 所 出雲ドーム
対 出雲県土整備事務所戦
結 果 青年部会 6 × 5 出雲県土

今年も去年に引き続き、出雲支部青年部会 会員交流委員会主催によります「親善野球交流試合」が、6月17日に出雲ドームにて行われました。

今回の第2回の対戦相手は「出雲県土整備事務所チーム」です。昨年の原商戦に続き勝利を収めたところですが、私は、野球経験がないため選手ではなく、応援という形での参加でした。

試合開始前には、山崎部会長と出雲県土整備事務所佐野所長との握手、そして佐野所長の始球式でプレイボールです。

試合は先発の佐野所長の好投により青年部会チームは3回まで0点に抑えられました。そして迎えた3回裏、ついに青年部会チームの先発の山崎部会長が捉まり、出雲県土チームが3点先取。

しかし、この後青年部会チームは4回表の攻撃で5点を取り逆転に成功しました。5回裏には出雲県土チームが2点返し同点に追いつきます。実力は互角の試合が続きましたが、終盤には、青年部会チームが1点追加し、出雲県土チームの追撃を振り切り、6対5の僅差で青年部会チームの勝利となりました。

怪我人も無く、両チーム楽しみながらも、試合は予想外の好ゲームでした。次回の再戦を誓い合い、今回の交流試合を終了しました。

最後になりましたが、ご協力いただいた出雲県土整備事務所の皆さま、選手として活躍された方々ご苦労さまでした。





地域貢献事業報告

～ふるさとまるごとクリーンアップ作戦～

久文建設(株) 嘉戸 務

青年部恒例行事となりました『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を、昨年の7月30日開催いたしました。

当日は、山崎部会長の挨拶の後、ガンバローコールで志気を高め、昨年に引き続き平田～大社間の国道431号の清掃作業を行いました。あいにく天候が悪く雨の心配をしながらの作業でしたが、日頃の行いのお陰か雨に降られることもなく、作業を進めることができました。

途中、道幅の狭いところや、交通量の多い場所もありましたが、出雲県土整備事務所の皆様にもご参加頂き、効率的で安全な作業が行えたことを大変嬉しく思っております。

このクリーンアップ作戦に参加し、年々回収するゴミの量が減ってきていることに気がきます。地域住民の方々、通行する方々の環境への意識の向上を感じます。ただやはり、沿道からの死角に空き缶やコンビニのゴミが落ちていたり、ポイ捨てされた吸い殻が落ちていたり、『ゴミ0』にはまだまだ遠い道のりです。

私達が作業する横を何台も車が通りすぎていきました。車の窓から見たであろう私達の清掃する姿が、一人でも多くの方々の環境について考えるきっかけとなれば、道路がきれいになるというだけで終わらない、次へと続く活動として、大変意義のあるものではないかと感じました。

431号は島根県の観光資源でもある出雲大社と松江をつなぐ大切な『道』です。私達の地道な活動が、地元はもちろん他県の方からの島根のイメージアップにつながり、更には建設業界全体のイメージアップにもつながる事を願っております。



平成 21 年度視察研修報告 ～日本の歴史教育を次世代へ伝えるために～



(株)三原組 三原 惇志

先般 6 月 28 ～ 30 日に当青年部研修視察は東京へと企画開催された。今回の研修先は我々社会人として、日本の正しい歴史認識を再確認し、各会員が今後どのように考え・行動し・次世代に伝えていくべきかを体験し、自己学習するため、靖国神社正式参拝・遊就館見学・防衛省視察を行った。私は全てが初めて行く所であったが、靖国神社は殉国の英霊を慰霊顕彰する所であり、観光地ではないと思っていたのだが、若い人やカップルなどが多く来ていたのが意外だった。又、A 級戦犯が合祀している事から、重苦しいというイメージを描いていたが、想像に反して非常に静謐な雰囲気が広がっていた。



三島由紀夫が仁王立ちした市ヶ谷記念館



東京裁判が実際に行われた市ヶ谷記念館大講堂

ここには多くの戦死者が眠っていて、そうした歴史を振り返り、思いをはせながら参拝を行った。

参拝後には靖国神社の隣にある遊就館見学へ行った。まずガラス張りの玄関ホールには零戦をはじめ、物資補給の際に使用されていた蒸気機関車や大砲等が展示してあり、次に 2 階には明治維新・日清戦争・大東亜戦争を時代ごとに分かりやすく解説され英霊の遺品、遺書、遺影等の武勲が紹介され、大展示場

には人間魚雷「回天」、ロケット特攻機「桜花」など大型兵器が展示されていた。

そこにはフィリピンから祖国の妻へ書いた遺書や、妻をめとる事も出来ずに戦死した息子に母からお供えされた花嫁人形と母親の思いが詰まった手紙等が展示されていた。「あーなるほど、こういう場だったのだ」と感じさせたのは「私たちは忘れない」という映画だった。私たちの国には明治維新以来の、共に力を合わせ国難に立ち向かった日本人の誇り高い不屈の精神の歴史があり、かげがえのない命を国に捧げた先人たちの悲しくも尊い歴史があったこと、今でもまだ日本へ帰らない遺骨がある事、そうした事からこの映画を見て国難に殉じた英霊達への感謝と祈りとを忘れてはいけないと感じた。



特攻で散っていった零式艦上戦闘機



あの田母神さんがいた防衛省

訪れて驚いたのは外国人が多く、その中には中国や韓国の方と思われる人も多くいた。

どういう気持ちで訪れているのかはわからないが、靖国神社に批判的な国の人々が訪れているのは意外であったが、出口付近に置いてあった来館者による自由メモ帳には比較的靖国神社や遊就館には好意的なものであった。

遊就館は何度も増築し、現在の建物になっているが、私たちは今後新たな遊就館をつくる事のないような国にしなければならない。その為に今後とも先人たちの思いに恥じぬよう地域社会や人と人との和を大切に頑張らねばならぬと痛感した。

最後に、青年部の研修視察は初めて参加させていただきましたが、自分にとっては大変有意義な研修をさせていただきましたと思います。

有難う御座いました。

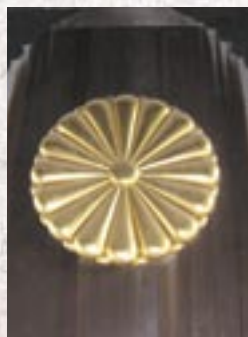
防衛省屋外ヘリ展示場



防衛省屋外ヘリ展示場



正式参拝前の緊張の靖国神社参集殿



靖国神社本殿前



新分野進出！ ～情報収集視察研修～

昭和開発工業(株) 荒木 克之

2月2日から3日にかけて開催された視察研修に参加しました。今回の研修は、私が所属する地域貢献委員会で担当する事業であり、是非とも多くの会員の参加を募れるよう委員会でも検討してきた研修会です。我々、建設業者が一年を通じて最も多忙である年度末での開催ということもあり、期待する参加人数には若干届きませんでした。初参加の会員含め、いつもとはまた違った顔ぶれに山根委員長も喜んでおられたようです。

さて最初に訪れたのが東京国際フォーラムで開催されたベンチャーフェア Japanでした。企業の販路開拓、事業提携や資金調達などを目的に開催されており、何かのきっかけでも掴めればと誰もが期待を持って臨まれたと思います。熱心にブースをまわり、出展者と交渉をされている方もおられたようでしたので、成果があることを願っております。

次に向かったのが二日目の東京スカイツリー。自立式の電波塔として世界一となる634mのタワーの建設現場でしたが、その現場の規模の大きさもさることながら、その高さに驚きました。現在289mを建設中であり、さらにその上に345mという高さは、真下から見上げると正直なところ想像がつかない領域です。わが国の優れた技術と、施工スタッフのご苦勞が窺われる建設現場でした。次回は2年後の完成したタワーを楽しみにしたいと思います。

こうした研修会の大きな目的のひとつは、会員間の繋がりをより強固なものにしていく懇親会ではないでしょうか。今回は赤坂の中華料理店で行い、参加者全員が陳健一の料理に感動をされたと思います。少々、紹興酒が過ぎたため舌の感覚が鈍っていたのは惜しまれますが、最後に出てきた麻婆豆腐の罰ゲームのような辛さには、さすがに酔いも醒めました。その後の都内の散策においても、皆さんと楽しく語り合い、また明日からの活力となったことと思います。

今回の研修会は設営側という立場で参加しましたが、多くの不手際があり、参加頂いた皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。それでも皆さんにご協力を頂き、新分野への情報収集、会員相互の親睦という掲げていた目的の成果はあったと思います。我々、建設業界は大変厳しい時代にあるので、こうした研修会には参加しづらい面もあるとは思いますが、多くの会員の参加があってこそ、この出雲支部の活性にも繋がると信じています。今後の研修がさらに充実することを祈念し、また参加頂いた皆様に感謝申し上げ研修会の報告と致します。

視察研修スナップ



ベンチャーフェア Japan 2010



ギフトショー



激辛! 陳麻婆豆腐



東京スカイツリー建設現場 只今 289m



東京スカイツリー





俺の人生オフロード!!

(株)山本工務店 花田 泰久

私は、子供の頃から何にでも興味を持つ性格であった為、多種多様なものに執着して趣味としてきました。振り返ってみると、子供の頃の魚釣りに始まり切手収集、模型作り、アマチュア無線、映画鑑賞、車、バイク、キャンプ、スキー、ジェットスキー、ジェットボート、スキューバダイビング、ウェイクボード、パラセーリング・・・etcと数えれば限が無いのですが、室内(インドア)から陸・海・空(アウトドア)までを広く浅く、「カジって」みたような気がします。

中でもバイクは最もハマッタものの一つであり、車の免許を取得後、暫くして知人の乗っている400ccのバイクに憧れ即免許を取得!

当時は、バイクが登場する漫画も流行り、世の中の主流はオンロードタイプでありました。

にもかかわらず私が最初に選んだバイクは、別の知人が引っ越すため、格安で譲ってもらった「グリーンの蛍光色も鮮やかな200ccのオフロードタイプ KDX」であった。理由は、単純で気になるオンロードタイプの車体価格には手が届かなかったことや維持費を捻出するのに余裕がなかったからです。

それまで性格的にも外見的にも派手ではなかった私にとって、この「目立度」には若干の抵抗はありましたが、不思議なことにヘルメット(これも相当派手である)をかぶると何も気になりませんでした。というか周囲の視線が見えにくかったのです。それからは、バイク仲間と連休になれば県内外へツーリングによく行きました。オフ車は、林道だろうが砂浜だろうが泥道だろうが容赦なく走れるので、時には野宿をしながら道無き道を駆けずり回ることもしばしばありました。

一度、とある牧場の草原を2台で走行中(勿論勝手にです。ゴメンナサイ)に勢いで「仏教山」の山中に突入した時には、眼下に谷底を見ながら里道とも呼べないような道を勘だけで走り、死ぬ思いで山を越え最終的には民家の裏山というか庭先に出ました。あの時目があつたお婆さんの驚きの顔は今でも忘れることはない。こんな無茶は後にも先にもこれだけである。(今思えば通報されなくて本当に良かった)

その後、バイクという共通の趣味を持った仲間からは、バイク以外にも様々な影響を受けました。

(冒頭に挙げたバイク以降の趣味はほとんどがそれです)



どれも金銭的に結構かかりそうですが、道具を借りたり貸したりで大きな負担にはならなかったし、何より仲間と一緒に新しいことにチャレンジしている時の充実感が心地よく、そのために仕事も一生懸命になれました。さすがに最近はおとなしくなりましたが、当時の仲間と談笑していると良い「縁」と良い「経験」をいただいたなあつくづく思っています。

最後に一言“長い人生山あり谷あり、オフロードで乗り切っていきましょう”(無茶はダメですよ)

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

歴代部会長

初代部会長	山本恭則	【平成9年度】
第2代部会長	今岡裕統	【平成10～13年度】
第3代部会長	別所幸雄	【平成14・15年度】
第4代部会長	広戸修	【平成16・17年度】
第5代部会長	久文秀典	【平成18・19年度】
第6代部会長	山崎章弘	【平成20・21年度】

編集後記

我々建設業界を取り巻く環境は、日々厳しさを増し、まさに抜き差しならない状況になっています。昨日まで仲間であった企業が、毎年のように姿を消してゆく…

こんなことが当たり前の日常であり、多くの企業が「明日は我が身」と危機感を募らせています。

毎年のように変化する経営審査事項の項目や入札契約制度、下がり続ける発注単価と増え続ける提出書類。

建設業者として生き残るためのハードルは高くなる一方です。

しかしながら、これらを他人のせいにしていても、そこからは何も生まれません。私たちは、この現状を真摯に、かつ謙虚に受け止め、具体的に動かなくてはなりません。

では、生き残るためには何が必要なのか？

そのために、我々青年部会として何ができるのか？

「具体的に動けば、答えがでる」今は、思い悩むよりも先に行動する時です。

部会長の旗の下、青年部会の会員が一致団結したときのパワーは、この厳しい環境を変えられると信じています。

地元の建設業者としての誇りを持って行動してまいりましょう。

これからの、地域の安全・安心なまちづくりの一角を担う若者として…

広報委員 内藤圭司

社団法人 島根県建設業協会出雲支部青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL: 0853-21-1187 FAX: 0853-21-2454

出雲支部ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)

青年部の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。